

勝つための戦術や戦い方を追求するがあまり、本来その年代では教えるべきでない戦い方で教えてしまう指導者がいます。選手個々の能力を伸ばすことに目を向けず、手段を選ばず、チームをいかにして勝たせるかということだけに心を砕くようになってしまふのです。つまり、選手を成長へと導くのではなく、勝つための方法を教えているだけなのです。

選手には成功や失敗など、多くのことを経験しながら成長していつてほしいと願っています。育成年代における選手達の発育発達の個人差は、今に始まったことではありません。成長速度に合わせた選手の評価や指導方法を行なっていかなければ、その後の競技人生に悪い影響を与えてしまいます。

発育期に無理なトレーニングやプレーを強制することで、怪我はもちろん、成長期障害を引き起こし、競技を継続することが不可能な身体になってしまふことも珍しくありません。そのように選手を追い込んでいく指導者に、選手を指導する資格はありません。

指導者は早熟な選手と成長が遅い選手をしつかりと見極める目が求められます。早熟な選手に対しては、他の選手達に身体的な成長が追いつかれても、その中でプレーができるスキルやテクニックを身に付けさせる必要があります。成長が遅い選手に対しては、他の選手と比べてプレーの良し悪しを判断するのではなく、その選手に合わせた課題を提示して、成長を促していくのです。

## 選手の成長に合わせた育成方法を考える。 勝つことだけが、育成の成功ではない。

### 自立とは

自立とは、自分分で考え、判断して、行動することと私は定義します。しかし、選手が自立できているかを判断するのは難しいことです。それではその人が自立をしているという判断材料、指標はどこにあるのでしょうか。

サッカーの指導者向け教本においても、サッカー選手の育成において、自立期に成功を収めることが大切と書かれています。ここでは、自立期という言葉で表現されていますが、この自立期がいつなのか、判断するにはどうしたらよいのでしょうか。

まず、自立に年齢は関係ありません。中学生で自立できる人もいれば、大学生になっても自立できない人もいます。2つのケースを見比べて検証していきましょう。

#### 《ケース1》

スポーツを頑張る中学生の選手がいます。彼の家庭は金銭的に裕福ではありません。そのため、彼はスポーツの道を極め、プロスポーツ選手として金銭を稼ぎ、家族を養っていくことを決意しました。それから、この選手が見据える目標や練習、試合に対する取り組みは、他の選手とは比べものにならないほど高いものになりました。

#### 《ケース2》

大学四年生の22歳になる選手がいます。彼は学費も部活に必要な遠征費や道具代も、全て親